

借金の相談は早めにしましょう

キャッシュレス決済や消費者ローンなど、ショッピングやキャッシングの取引が簡単にできる便利な社会になりました。しかし、「スマホでバーコード決済を利用して支払いをしていたら、家計管理がきちんとできず、いつの間にか借金がかさんでしまい多重債務に陥ってしまった」といった相談もあります。

多重債務に陥ったときには、収入や債務状況、利用履歴によって方法が変わりますが、一人ひとりの状況にあった解決方法があります。

多重債務に陥るきっかけは人によりさまざまです。共通しているのは「自分の支払い能力を超えた債務を負ってしまう」ということです。「今足りない分を補おう」「リボ払いなら、ひと月当たりの支払いは安いから」などと、油断してお金を借り入れると、後で大変なことになってしまいます。

多重債務に陥らないためにも、自分の収入の範囲で生活をするよう心がける必要がありますが、返済に困ったら一人で悩まずに早めに消費生活センターに相談してください。

消費生活センター(生活支援相談課内)

☎(582)1146 ☎(582)1138



3010(さんまるいちまる)運動に取り組みよう!

これから年末年始にかけて、忘年会、新年会などで飲食の機会が増えます。3010(さんまるいちまる)運動とは、一人ひとりが「もったいない」を心がけておいしく楽しく宴会することで、食品ロスの削減につなげる運動です。

みんなで取り組みましょう。

30さんまる

乾杯後、30分は自席で食事を楽しみましょう。

10いちまる

お開きの前の10分は自席に戻って食べきりましょう。

岡ごみ減量推進課

☎・☎(584)4692

FAX(584)4818

ごみ分別
アプリ
配信中!



iOS版

Android版

トリックアートの歴史

佐川美術館「アートコラム」⑦

佐川美術館
学芸員・栗田 領子



だまし絵とも言われるトリックアートは、明暗法や遠近法、色の性質を巧みに利用して制作されており、現在も常に新しい技術やアイデアが加えられ進化しています。

トリックアートの起源は2,000年以上前の古代ローマにまでさかのぼります。火山の噴火で街全体が壊滅したポンペイ遺跡の壁画の中に、独特な遠近法によって錯覚させる絵が残されています。ルネサンス期になると教会などの装飾として壁画や天井画に取り入れられ、次第にトロンプ・ルイユ(フランス語で「眼をだます」の意と呼ばれるようになりました。16世紀に入ると、イタリア人画家のアルチンボルドが野菜や植物などの静物を組み合わせさせて人の顔を描いています。こちらは美術の教科書によく掲載されているためご存じの方も多いでしょう。一方、日本でもトリックアートは独自の発展を遂げ、江戸時代の浮世絵師・歌川国芳を代表として、複数の人や猫を寄せて文字や顔を描く「寄せ絵」が行われました。

このように世界各地で描かれ続けてきたトリックアートの世界に、20世紀に入って奇才が現れます。「視覚の魔術師」の異名を持つエッシャーは、無限に上り続ける階段といった三次元ではありえない構造物を平面に描いたり、ある形が次第に別の形に変化するメタモルフォーゼ作品を制作したりと、独自の世界観を展開しました。

トリックアートはいつの時代でも人々の好奇心を駆り立て、魅了してやみません。この冬は佐川美術館でエッシャーの不思議な世界をお楽しみください!

※開館情報につきましては、ホームページでご確認いただくか電話(☎(585)7800)でお問い合わせください。